

丹波市(近畿圏ブロック)

【計画期間 平成28年4月～33年3月】

- ・ 明治以降、丹波地域の行政拠点として国の出先機関などの行政機関が集積し、また、交通の結節点でもあることから地域経済の中心である。
- ・ 柏原藩陣屋や武家屋敷、町屋等、歴史的建造物が現存している。
- ・ 人口64,689人(平成27年国勢調査) 面積493.21Km²

【前計画の概要】

○歴史的建造物等の既存ストック活用による集客・交流客の増加及び回遊性の向上を図るとともに、再開発事業等により減少する人口に歯止めをかけることを目指した。
 具体的には、(株)まちづくり柏原によるテナントミックス事業や、JR柏原駅前再開発事業を予定していた。
 (計画期間:平成21年3月～平成27年2月)

■前計画の目標

目標	指標	基準値(H20)	目標値(H26)	最新値(H26)
ストック活用による集客・交流機能の強化	歩行者・自転車通行量	790人	1,000人	714人
官民協働による街なか居住の推進	中心市街地の人口	1,993人	2,000人	1,900人

【中心市街地の変化】

○歩行者通行量は計画期間中は未達成ではあるものの、たんば黎明館(大手会館活用)整備後の平成27年6月には1,169人の測定結果となっており、計画期間終了後に前計画の目標値を上回るほどの回遊性が生まれている。
 ○人口については、予定していた再開発事業の未着手などにより、目標未達成となっている。

■新計画の目標

目標	指標	基準値(H26)	目標値(H32)
ストック活用による集客・交流機能の強化	歩行者・自転車通行量(平日)	714人	1,348人
暮らしを支える文化・社会サービスの提供	文化・交流施設の利用者数	22,478人	30,000人
地域経済の新陳代謝を生む起業・創業支援	新規店舗開業数	7店舗(H21-26)	11店舗(H28-32)

【目指す中心市街地像】

「時の太鼓が響き、とどく“ロマン城下町かいばら”の創造」
 ～丹波の魅力を磨き発信し、集客と生活の基盤を創造するまちづくり～

集客・交流機能の強化

- 【主要事業】
- ・テナントミックス推進事業
 - ・丹波らしい宿泊機能の整備事業
 - ・旧役場等公共建物活用事業
 - ・商工会館リノベーション事業
- など

文化・社会サービスの提供

- 【主要事業】
- ・木の根橋周辺観光空間整備事業
 - ・柏原藩陣屋活用事業
 - ・大手会館(たんば黎明館)利活用促進事業
 - ・八幡公園整備事業
- など

起業・創業支援

- 【主要事業】
- ・テナントミックス推進事業
 - ・新規起業支援事業
 - ・商工会館リノベーション事業
 - ・起業塾開催事業
- など

丹波市中心市街地活性化基本計画の事業概要

集客・交流機能の強化

①旧役場等公共建物活用事業

支所機能を移転する公共施設を活用し、観光拠点及び移住相談窓口を整備する。



観光機能を充実する柏原支所

○丹波らしい宿泊機能の整備事業

古民家を活用し、ゲストハウス、体験型等の丹波の風土を体感できる宿泊施設を整備する。

文化・社会サービスの提供

②柏原藩陣屋活用事業

城下町の歴史建築物を活用し、イベントや講座を開催し、歴史資源の有効活用を図る。



柏原藩陣屋

○大手会館（たんば黎明館）利活用促進事業

大手会館の歴史や施設の魅力を活かしたイベント等を開催し、利用者数の増加を図る。

起業・創業支援

③商工会館リノベーション事業

旧柏原町商工会跡を、シェアオフィスなどインキュベーション施設としてリノベーションを行う。起業者支援拠点として、相談窓口機能を充実させるほか、専門家による支援を実施するなど、起業者のワンストップサービスの拠点として充実を図る



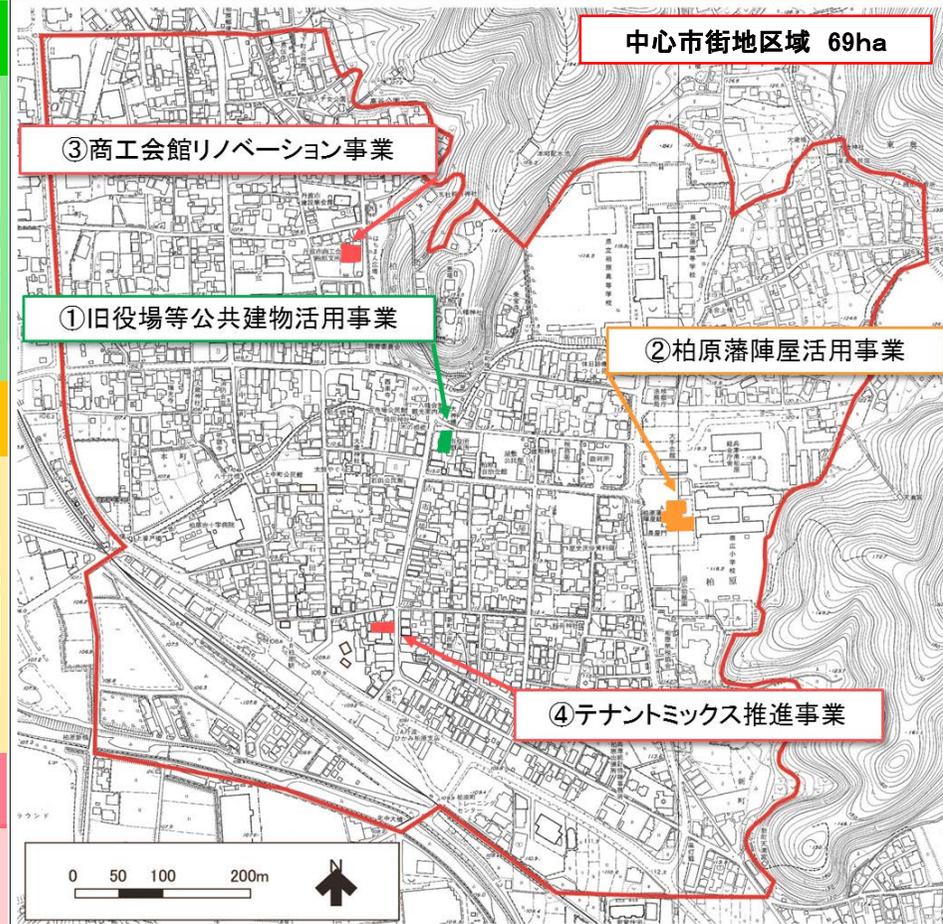
旧柏原町商工会館

④テナントミックス推進事業

㈱まちづくり柏原が主体となって取り組んでいる中心市街地内の空家・空地を活用したテナントミックス事業を引き続き実施する。



㈱まちづくり柏原が経営するレストラン「オルモ」



八幡神社からJR柏原駅方面を望む